ある。

佛印が日本より輸入する主要品は絹織物、生絲、人絹織物、陶磁器、硝子等で、何れもフランス製品と競爭關係にあるもの多く、その總額は佛印の對日輸出額の1/4にも達しなかつたことさへある。否、日支事變下三ヶ年の日佛印貿易を見る限り兩國の貿易關係は何等好轉の見込さへなきのみならず、佛印當局は日本向鐵鑛及びマンガン鑛の輸出禁止を命じ、或は日本品に對し原產地證明を要求する等日本の對佛印貿易を極力阻止し、政治的にはフランス本國慘敗迄は英、米と結び援蔣行爲を繼續し英米側の極東共同防備作戰に參加して日本の東亞新秩序建設を妨害して來たのであつた。

しかもフランス本國にペタン政權が成立し、獨、伊の全體主義體制に倣つて新フランスの再建に發足したが、この當初においてさへ前總督カトルーはモロツコ、シリア等と同樣にペタン政權に反抗したのであつた。しかし佛印がヴイシー政府を支持する限り、從來の如き英、米依存政策は執れず、その喪失した市場を回復するためには從來の對日敵性を放擲して我が國と共に東亞共榮圈の確立に協力して自ら救ふ以外には途が殘されてゐない。一九四〇年七月佛印總督府經濟部はカトルー總督の名を以て「佛印對外貿易の將來」と題する意見書を發表した。これには多分の政治的ジエスチュアが含まれてゐるとはいへ佛印の進む途を指示してゐる。曰く、

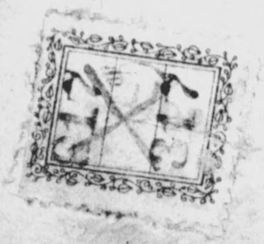
『佛印對フランス本國の貿易は……一九三九年秋以來逆轉し、戰爭開始後八ヶ月間の對フランス本國輸出は僅かに三〇萬瓲で、前年同期九四萬瓲に比し激減した。佛印商品のフランス本國外の販路開拓が喫緊の問題であり、就中太平洋諸國への進出が必要である、重要產物については佛印は幸にも本國に代り日本に販路を得、農產物の對日輸出は最近相當に增加し、佛印の經濟的危機は日本が救つたといへよう。ゴムを除く他の商品の對日輸出には限度があるが、日本は石炭、鐵鑛、鹽等の好顧客で將來ゴム、亞鉛、燐礦等も大いに對日輸出增加の可能性があり、日本から綿絲布、人絹、陶磁器化學製品導が輸入されるなら、佛印と日本との經濟的關係は益々緊密となるう』と。

昭和一六年三月の日佛印經濟條約の締結を初めその後の兩國關係は實にこの東亞共榮圈確立の途への相次ぐ前進である。

（終）

製本控

912又 函	312又 號	年　月　日
佛印の政治・經濟・文化		
備考		冊



30273
N28
4